
シスコン×2 ～学校にて～

たなべ

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

シスコン×2 ～学校にて～

【Nコード】

N8037D

【作者名】

たなべ

【あらすじ】

シスコンな主人公の学校のある日。前作「シスコン×2」の続編ですが、これだけでも読める様になってると思います。

(前書き)

前作の続編を書いてみました。

楽しんでいただけたら幸いです。

感想・評価、どんな事でも頂けたら嬉しいです！

現在、俺が通う中学校は朝のHRの前の自由時間。

「おはよ。日下部くまかへ」

「ん？ 涼白すずしろか。おはよう」

顔を上げると、声をかけてきたのは数少ない女友達の涼白 麗菜れいなだつた。

涼白は隣りの席なので、暇な時間はよく喋ったりしている。

ただ…

「何やってんの？」

「今日の授業の予習」

「うっわ…。毎朝よくやるわね」

「予習しとけば授業が楽になるし、家に居る時に陽菜はるなと遊べる時間を増やせるんだよ」

「勉強する理由まで妹絡み…流石シスコンね」

「俺はシスコンじゃねえ！」

「あんたがシスコンじゃなかったら、大抵の変態は変態じゃなくなるわね」

「今度は変態扱い！？ どんだけ失礼なんだよお前！！」

「正直な意見を言ってるだけよ変態」

「…蹴るぞ貴様」

「そしたら蹴り返すわよ。女子全員で」

「数の暴力！？ 卑怯臭え！」

「私あんたと違って人望が有るのよゴミ」

「ゴミ！？ 段々扱いが酷くなってきてる！？」

…この様に言う事が逐一サディスティックな女なのだ。何でこんなサドい奴に人望が有るんだろうか？ 謎だ。

キーン コーン カーン コーン

「お？ チャイムか」
助かった。このままこの女郎めらうと話していると、HPが朝から半分になる。

ダツダツダツ！ ドガンツ

「セーフか？ 良し！ セーフだな！」

騒々しく教室に入ってきたのは我が親友大夢ひつむだ。奴は毎朝、というか毎休み時間、義理の妹にして恋人の愛まなに会いに行っていて、教室に入るのはいつもギリギリなのだ。何度か遅刻したことも有る。

「朝から騒々しいな大夢」

「お！ おはよう！ 剛たけし」

「ああ。おはよう。さつさと席に着いたほうがいいぞ
そう言うと、大夢は少し慌てて俺の前の席に着いた。」

ガラガラガラッ

とタイミングを計った様に教室のドアが開き、担任の教師が教室に入ってきた。

「みんなおはよう。早速出席をとるわね」

教卓から先生が行順に呼んでいく。

「日下部くん」

「はい」

呼ばれたので返事をする。

そして、涼白の番。

さて、今日もだろっか？

「麗菜ちゃん」

「…」

「麗菜ちゃん？ お返事は？」

「
…」
「
れ
」

ガタンッ！

音を発てて涼白が立ち上がる。今朝もか…。

「名前で呼ぶな！」

「えーっ…」

「不服そうな顔をしない！」

「別にいいじゃない。麗菜ちゃん」

「だから止めてって言ってんでしょ！ バカ姉！」

そう。我がクラスの担任、涼白 明実^{あけみ}は俺の隣りの涼白 麗菜の
実の姉なのだ。
そして、

「バカだなんて…非道いわ、麗菜ちゃん」

「だから、麗菜ちゃん言うな！」

「お互いに裸を見せ合った仲じゃない」

「小さい頃に一緒に風呂に入ってただけでしょ！ 誤解を招く言い
方をするな！」

「私は麗菜ちゃんを愛してるだけなのにーっ」

「気色の悪い言い方をするなっ！！」

…という風に、妹にかなりの愛情を注いで接している。

「ガーン…れ、麗菜ちゃんに気色悪いって言われた…」

お？ ショックを受けてる。流石に気色悪いと言われたのは効い
たらしい。

かく言う俺も、もし、陽菜に「お兄ちゃん、気色悪い」なんて言
われたら…。

「非道い！ 非道過ぎるわ！ 麗菜ちゃん！」

…言われたら…。

「泣くな！ 鬱陶^{うづとう}しいー！」

…言われたら…。

「う、うわーん！ 今度は鬱陶しいって言われたーっ！」

「なんか先生、マジに泣き始めてね？ なあ、たけ……うおっ！？
ど、どうしたんだ剛！？ 顔が有り得ない程に青いぞ！」

「…はっ！？」

大夢の呼びかけで現実に戻ってきた。…想像しただけで死にそう
だった…！ なんて恐ろしい威力…！

「わりの。大夢。助かった」

「い、いや、いいけどさ。いったいどうしたんだ？」

「…は、陽菜に…き、気色悪いつて言われた所を想像したら…」

「…ああなつたと」

「…もう二度と想像しないことを誓う…」

「…そうしろ」

「…そうする」

「で、あれどうする？」

大夢が指差す方向を見る。

「うわーん！ もう生きていけないー！」

「いい大人が子供みたいに泣くな！」

…うわーい。

「いつの間にか、凄い事になってるな…」

「だろ？」

はあっ…。と溜め息を吐く。

「しょうがない…」

正直、涼白を止めるのは精神に多大なダメージを負うので嫌なの
だが、このままだと先生が可哀想だし。

「落ち着け、涼白。このままだと先生が涙を流し過ぎて干からびる」

俺は涼白に声をかける。

が、

「シスコンは黙ってて！」

ぶちっ

その一言で俺はぶちキレた。

「貴様！ 俺はシスコンじゃないと何度言えば分かる！」

「うるさいっ！ 生徒手帳に妹の写真を挟んでる奴をシスコン、って呼んで何が悪いのよ！」

「そんな事は普通だ！」

「普通なわけあるか！」

「可愛い妹の写真を肌身離さず持っていたと思うのは人間として当然だ！ サド女！」

「誰がサド女よ！ シスコン！」

「お前以外に誰が居る！ サド白！」

「サドし！？ 人に変なあだ名をつけるんじゃないわよ！ シスコン！」

「俺をシスコンと呼ぶなと何度言えば分かる！ サド白！」

「シスコンはシスコンでしょ！ シスコン！」

「貴様覚悟はいいな！！ 表に出る！！！」

「上等よ！ 今日こそ息の根を止めてやるわ！！！」

睨み合っただまま涼白と教室を出ようとする。

だが、

ゴスツ！！

「！？ グボアツ！！！」

バタツ…

首に激痛が走ったと思ったら、次の瞬間俺は倒れていた。

「…な、何だ？ いったい何が起きた…！」

「麗菜ちゃんの敵は私の敵よ！」

「お、お姉ちゃん！？」

倒れたまま視線を上げると、何時復活したのか、涼白先生が木刀（どこから取り出したんだ！？）を持って立っていた。…どうやらアレで叩かれたらしい…。

「…きよ、教師が生徒に暴力振るわないで下さい…。」

「教師である前に、私は麗菜ちゃんの姉だから無問題よ！」
モーマンタイ

「いや、問題有り過ぎですから…」

この人よく教師に成れたな…。

「お姉ちゃん…」

「す、涼白も何か言っちゃってくれ…」

俺の言う事は聞かなくても、溺愛する妹の言う事なら

「グツジョブ！」

なぬっ！？

「よく殺ってくれたわ。ありがと。お姉ちゃん」

殺って、ってあんた…。

「うふ 気にしないで、お姉ちゃんは麗菜ちゃんの為ならなんだ

って出来るのよ？ 何故なら私は麗菜ちゃんを愛してるんだから！」

「うふふ…。くさくさかべ？」

姉の言葉を完璧にスルーした涼白は妖しい目で俺を見た。

や、やばい！ 身体が動かない…！！

「は、はい？ なんででしょうか？ 涼白様？」

「さつきはよくも色々と言ってくれたわね…」

「い、いえ。それ程でも…」

「うふふふ…」

「あ、あははは…」

「うふふふふふふ…」

「あはははははは…」

「死になさい！ シスコン！」

「い、いやあああああ！…！！…」

シスコン×2 ~学校にて~

シスコン×2 ～学校にて～

(後書き)

感想・評価どんな事でもいいので、よろしくお願いします！

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8037d/>

シスコン×2 ~学校にて~

2009年3月24日11時45分発行